

2009年度 エコノメトリックスII&上級エコノメトリックスII 第6回宿題解答例

2009年11月27日

Q. 3.2

(3.16) 式の大数の法則を中心化した変数 (centered variables) $x_t - \mu_t$ について表すと、

$$\text{plim}_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \sum_{t=1}^n (x_t - \mu_t) = 0$$

となる。ところで、 μ_t は非確率変数であるから、上式は

$$\text{plim}_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \sum_{t=1}^n x_t - \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \sum_{t=1}^n \mu_t = 0$$

となるので、求めようとする式はここから自明。

Q. 3.8

A は $k \times k$ の正値定符号行列 (positive definite matrix)。いま R を $R^2 = A$ となる $k \times k$ の対称行列とする。また z を $R^{-1}z = x \neq 0$ となる非ゼロベクトルとする。このとき、正値定符号行列の定義より

$$x'Ax = z'R^{-1}AR^{-1}z = z'z > 0$$

これより、

$$\begin{aligned} x'(I - A)x &= z'R^{-1}(I - A)R^{-1}z \\ &= z'R^{-2}z - z'z \\ &= z'(A^{-1} - I)z \end{aligned}$$

したがって、 $(I - A)$ が正値定符号であれば $(A^{-1} - I)$ も正値定符号。逆も同様に成立。 QED
次に $A - B$ が正値定符号行列であれば、

$$\begin{aligned} x'(A - B)x &= z'R^{-1}(A - B)R^{-1}z \\ &= z'(I - R^{-1}BR^{-1})z > 0 \end{aligned}$$

ゆえに、 $I - R^{-1}BR^{-1}$ も正値定符号行列。このとき前段の性質から $RB^{-1}R - I$ も正値定符号行列。

$$z'(RB^{-1}R - I)z = x'(B^{-1} - A^{-1})x > 0$$

よって $B^{-1} - A^{-1}$ は正値定符号。逆も同様に証明。 QED

Q. 3.10

(3.33) 式より、 $\text{Var}(\hat{\gamma}) = \mathbf{w}'\text{Var}(\hat{\beta})\mathbf{w}$ である。(3.24) 式から、この二次形式は

$$\sum_{i=1}^k \sum_{j=1}^k w_i w_j \text{Cov}(\hat{\beta}_i, \hat{\beta}_j) \quad (Q3.10 - 1)$$

と等しくなる。

しかし $\text{Cov}(\hat{\beta}_i, \hat{\beta}_i) = \text{Var}(\hat{\beta}_i)$ かつ $w_i w_i = w_i^2$ なので、この式は

$$\sum_{i=1}^k w_i^2 \text{Var}(\hat{\beta}_i) + \sum_{i=1}^k \sum_{j \neq i} w_i w_j \text{Cov}(\hat{\beta}_i, \hat{\beta}_j) \quad (Q3.10 - 2)$$

と等しい。

さらに、共分散行列が対称であるから、 $\text{Cov}(\hat{\beta}_i, \hat{\beta}_j) = \text{Cov}(\hat{\beta}_j, \hat{\beta}_i)$ である。これにより、(Q3.10-2) 式の第 2 項は

$$2 \sum_{i=2}^k \sum_{j < i} w_i w_j \text{Cov}(\hat{\beta}_i, \hat{\beta}_j) \quad (Q3.10 - 3)$$

と表すことができる。

$\sum_{i=2}^k \sum_{j < i}$ を明示的に表現すると、 $\sum_{i=2}^k \sum_{j=1}^{i-1}$ になるので、(Q3.10-3) を書き換えると、(3.68) 式が得られる。